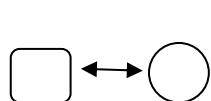


「インクルーシブ(育ちあう)保育」を実践するために

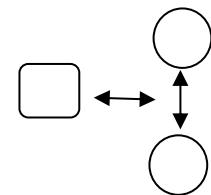
★障がいのある子どもとない子どもが同じ場で、助け合い
影響しあいながら育っていく実践を創りだしていきましょう。

★「幼いときから、共に生活し、共に育ちあう経験をする」
そんな子ども同士の育ちあいが大切です。

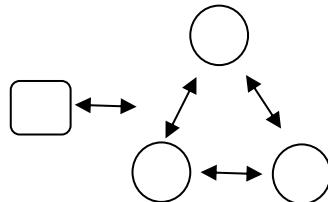
① 「この子」への手立て



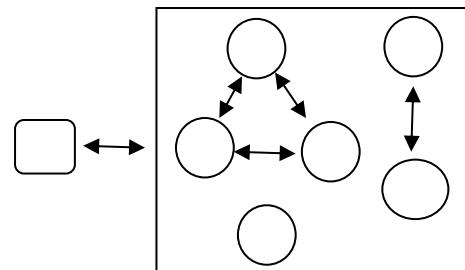
②仲間関係への手立て



③ 集団(グループ)への手立て



④クラスへの手立て



○は子ども

□は保育者の姿です

★保育実践の中でどのような手立てが必要かをみんなで考えていきましょう。

出典：堀智晴(2004)『保育実践研究の方法』川島書店を参照。

八尾市のめざす

インクルーシブ（育ちあう）保育



保育を進める中で大切にしたいこと

★子どもたち一人ひとりが全員違うということ
(多様性の尊重)

- ・子ども一人ひとりの存在、思いや気持ちを受け止めましょう。
- ・肯定的な声掛けや温かいまなざしで寄り添い、子どもの安心や意欲につなげましょう。
- ・子どもたちがお互いに関心をもってそれぞれの良さが認められるクラスを運営しましょう。

★子どもの姿に合わせて保育をつくりかえるということ
(合理的配慮)

- ・子ども自身が自分の好きな遊びや好きな活動を選べる環境を整えましょう。
- ・「楽しい!」「やってみたい!」など子どもの心が動く環境を整えましょう。
- ・常に子どもを真ん中に、子どもの姿に合わせて保育を考えていきましょう。

